

酒気帯び有無判別、体温確認… A I 活用に商機 石川、富山の企業開発に力

経済

2022/11/13 05:00

📌 記事を
保存

✂️ 切り抜
き紙面



酒気帯びの有無や体温などを確認できるダイワ通信の顔認証端末 = 金沢市内

●ダイワ通信が顔認証端末、省人化で負担軽減

石川、富山両県の企業が、人工知能（A I）を活用した製品開発に商機を見いだしている。ダイワ通信（金沢市）は、ドライバーの酒気帯びの有無などを確認できる顔認証端末を開発。インテック（富山市）はカメラ映像を解析して人混みを把握し、遠隔地の管理者にリアルタイムで状況を知らせる新サービスの提供に乗り出した。法改正などで需要を見込んでおり、A Iで作業の効率化や安全性を高める。

ダイワ通信の「フェイス・フォー・チェッカー」は、従業員が顔認証端末に顔をかざすことで、本人認証と検温ができる。アルコール検知器に息を吹きかけると、酒気帯びの有無が判別できる仕組みとなっている。

今年4月の道交法施行規則の改正で、アルコールチェックの義務化の対象が、白ナンバーの車両を使う事業所にも拡大。安全運転管理者には今後、検知器を使った測定が義務付けられる予定で、同社は企業向けに導入を働き掛ける。

測定結果は1年間保管する必要があるため、日時や氏名、車両番号などは端末に保存される。担当者は「現場の負担を軽くし、事故防止につなげたい」と話した。

インテック（富山市）の新サービスは、同社の「自治体向けIoTプラットフォーム」で、A Iで把握したデータを共有・活用できる仕組みとなる。

10月16日に小矢部市で開催された富山県総合防災訓練で、避難所の入り口など2カ所にカメラと解析機器を設置。出入りする避難者の人数を数えて混雑状況が確認できるかどうかを検証したところ、避難所の人数を正確に把握できることが分かった。

新型コロナ感染拡大を防ぐ密集の回避や、韓国ソウル・梨泰院（イテウォン）の雑踏事故を教訓としたイベントの安全運営に向け、幅広い機関に活用を促す。

インテックは富山県での採用を目指し、さらに精度を向上させる。同社によると、同プラットフォームは防災用のほか、観光施設での人出の把握や降雪量の予測、鳥獣被害の確認にも応用できる。

帝国データバンクの9月調査によると、企業の50・1%が正社員が足りないと回答するなど、企業の現場では人手不足感が強まっている。コロナ禍から経済活動が本格的に再始動する中で、その回復に採用が追い付いていないのが実情だ。

AIを駆使し、作業を効率化することは企業や行政の人員の負担軽減にもつながる。最新の技術を活用した開発は今後も広がりそうだ。